

2021 年度 シラバス (授業要覧)

表現学科 情報司書フィールド

2 年生



科目	小説論	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	桐生直代	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	この授業では、前半に様々な古典文学を読み、文学のジャンルと多様性について学んでいきます。後半は、近代の小説を題材に、批評理論を用いた読みをとおして、小説の方法や読み方について学んでいきます。		
到達目標	【知識・理解の観点】文学のジャンルについて理解し、説明することができる。批評理論を理解し、主体的にテキストを読むことができる。 【技能の観点】授業で学んだ方法を活用してテキストを読むことができる。 【態度の観点】ディスカッションや発表に意欲的に参加し、他者の意見を尊重し自分の意見を述べるができる。		
学習成果の評価基準	レポート（50%）まとめのテスト（20%）発表（20%）受講態度（10%）8回目のまとめの小テストは実施後、次回の授業でフィードバックします。14回目の発表は、教員のコメントをフィードバックします。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	オリエンテーション	シラバスを読んでくる。	
2.	神話	配付資料を読んでくる。	
3.	物語1（中古）	配付資料を読んでくる。	
4.	物語2（中世）	配付資料を読んでくる。	
5.	説話	配付資料を読んでくる。	
6.	近世の小説	配付資料を読んでくる。	
7.	近代小説の誕生	配付資料を読んでくる。	
8.	まとめの小テスト	内容の整理と疑問を解決する。	
9.	テキストとは何か	配付資料を読んでくる。	
10.	作者とは何か	配付資料を読んでくる。	
11.	読者とは何か	配付資料を読んでくる。。	
12.	文学と都市空間	配付資料を読んでくる。	
13.	物語の構造	配付資料を読んでくる。	
14.	学生の発表（9～10について、自分で例をあげて解説する）	9～14について、内容を整理する	
15.	まとめ		
教科書	なし。プリントを配付します。『国語便覧』を持っている人は持ってきてください。		
参考書	なし。プリントを配付します。		
学習成果の評価方法	レポート（50%）まとめのテスト（20%）発表（20%）受講態度（10%）		
特記すべき事項	クラスルーム上にて課題の提示や授業の指示などを行う場合があります。		
質問・相談等の受付	「小説論」クラスルーム、Gmailにて受け付けます。		

科目	情報メディア論	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	坂川和彦	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	人工知能やビッグデータの解析によく使われているプログラミング言語「Python」を使ってプログラミングの基本を学ぶ。また、人工知能ライブラリを使用して、簡単な人工知能アプリを作成してみる。		
到達目標	Pythonで基本的なプログラムが作成できるようになる。 人工知能について体験することにより理解を深める。		
学習成果の 評価基準	単元ごとにPythonのコードをチェックして理解の確認 手書き数字を認識するAIプログラムを作成		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	Pythonとは何か	教科書p14～41	
2.	簡単なプログラムの作成	教科書p42～53	
3.	プログラムで絵を描く	教科書p54～60	
4.	変数とデータの型	教科書p61～71	
5.	文字列操作とデータ型の変換	教科書p72～83	
6.	リストの書き方	教科書p84～89	
7.	反復と条件分岐	教科書p90～105	
8.	関数とモジュールの使用	教科書p106～118	
9.	簡単なアプリの作成	教科書p119～129	
10.	画像表示アプリの作成	教科書p130～143	
11.	画像表示アプリの改造	教科書p144～150	
12.	人工知能とは	教科書p151～161	
13.	機械学習に挑戦	教科書p162～175	
14.	人工知能アプリを作る	教科書p176～179	
15.	人工知能アプリを成長させる	教科書p180～189	
教科書	『Python 1年生』 森巧尚 翔泳社		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度：30% 授業内課題：70%		
特記すべき 事項			
質問・相談 の受付	図書館で随時受付 電子メールでも sakagawa@kvushuotani.online		

科 目	情報ネットワーク演習	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	坂川和彦	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	情報サービスの内、データベース等電子媒体情報のサービスを取りあげる。データベースの仕組みから、実際の各種データベースからの情報検索の実際までを、演習形式で学習する。		
到達目標	ネットワークやデータベースについて理解する。 ネットワークを通じて適切な情報を収集し提供できるようになる。		
学習成果の 評価基準	シソーラス作成して理解できているかチェックする。 データベース種類や機能、検索技法を検索課題で問う。 課題の検索技法のその結果を発表し、評価し合う。		
	授 業 計 画 (授 業 内 容)	授 業 時 間 外 学 習 予 習 ・ 復 習	
1.	インターネットの仕組み	配布プリント	
2.	ネットワーク接続の構成	配布プリント	
3.	ポータルサイトの活用	配布プリント	
4.	情報検索の基礎	教科書p3~7	
5.	データベースの基礎	教科書p7~12	
6.	キーワードとシソーラス	教科書p14~20	
7.	シソーラス作成演習	配布プリント	
8.	論理演算を使用した検索	教科書p23~35	
9.	人物略歴情報の検索演習	教科書p59~63 演習課題	
10.	雑誌記事情報の検索演習	教科書p64~68 演習課題	
11.	図書内容情報の検索演習	教科書p69~74 演習課題	
12.	新聞記事情報の検索演習	教科書p75~76 演習課題	
13.	NDL ONLINEの検索	配布プリント	
14.	Ciniiの検索	配布プリント	
15.	情報検索の評価とまとめ	教科書p20~22	
教科書	『CD-ROMで学ぶ情報検索の演習』 日外アソシエーツ		
参考書			
学習成果の 評価方法	授業内課題：50% 授業内発表：50%		
特記すべき 事項	司書資格必修		
質問・相談等 の 受 付	図書館で随時受付 電子メールでも sakagawa@kyushuotani.online		

科目	情報文化史	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	梅野智美	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	情報は文字の歴史、書物の歴史、図書館の歴史でもある。伝統的なメディアから、マルチメディア、インターネットにいたる情報媒体や情報社会を形作ってきた事物の生成・歴史など文化的背景をふまえながら学ぶ。		
到達目標	図書館や本、情報の歴史について理解し、情報の未来について考える能力を身につけることができる。		
学習成果の 評価基準	到達目標に明示している、図書館、本、情報の歴史を理解しそれらの未来について課題やレポートで述べるができる。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	生命の歴史	生命の歴史について考える	
2.	人類の歴史	人類の歴史について考える	
3.	人類史の位置づけ	人類とはいかなる存在か考える	
4.	古代の図書館（1）	四大文明と文字の誕生について考える	
5.	古代の図書館（2）	図書館の誕生、古代アレクサンドリア図書館について考える	
6.	中世の図書館（1）	修道院の役割について考える	
7.	中世の図書館（2）	移動図書館の誕生、十字軍の役割について考える	
8.	グーテンベルク革命（1）	ルネサンス期の司書の役割について考える	
9.	グーテンベルク革命（2）	活版印刷術・宗教改革が図書館にもたらした影響を考える	
10.	アメリカの図書館（1）	会員制図書館や公共図書館誕生について考える	
11.	アメリカの図書館（2）	図書の分類法やアメリカの図書館について考える	
12.	図書館の現在と未来（1）	電子図書館について考える	
13.	図書館の現在と未来（2）	過去の知的遺産の保存と貴重な書物の電子化について考える	
14.	情報通信の歴史	通信技術・コンピュータ技術の発展及び通信の歴史について考える	
15.	まとめ	今までの学びを振り返る	
教科書	『本と図書館の歴史』 モーリン・サワほか 西村書店		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（30%） 授業内課題（20%） その他（レポート）（50%）		
特記すべき 事項	担当者は司書として17年の実務経験を有しています。		
質問・相談 の受付			

科目	地域情報特論	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	古賀正美	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	将来、大学を卒業し地域にもどり、図書館人として活躍するために、地域における情報を身に付ける方法と図書館資料の情報を提供できる知識・技術を学び、利用者と資料を結びつけるための基本的な知識を習得する。		
到達目標	学生が「地域情報特論」で学んだ内容を発展的に身に付け、さらに理解を深める視点から、図書館情報についての基本的な理解を獲得させ、具体的な業務に活用できるようにする		
学習成果の評価基準	4回の授業ごとに到達確認レポートの提出をお願いする。 15回の授業終了後、定期試験を実施する。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	県市町村史（誌）の活用	出身地の自治体が刊行している市町村史を調べる。刊行年度も要注意です。	
2.	地域文化・芸術の発見と活用	筑後は芸術家がおおく輩出しています。一覧を分野ごとにしらべて下さい。	
3.	地域の石像遺物（神社・寺院）	神社・仏閣にある石造遺物の名前を調べてください。	
4.	地域の石像遺物（地蔵・弘法大師）	地蔵・弘法大師の伝説を調べてください。どの本を調べますか。	
5.	地域の言語（方言）	自分が使う言葉に方言があるかどうか、振り返ってみてください。	
6.	地域の産業を知る	筑後地区の伝統産業を調べてください。なぜ、伝統産業があるのでしょうか。	
7.	地域の伝統行事	地域の祭礼に何があるのか調べてください。	
8.	地域の建物を知る	各地域のシンボルとなっている建物があります。あなたにとってその建物は。	
9.	地域の歴史（村の歴史・町の歴史）	現在は各地区は市・町・村ですが、江戸時代はほとんど村です。	
10.	古文書の基本知識（和紙の歴史）	和紙について少し調べてください。八女和紙は有名ですよ。	
11.	古文書を読んでみる	古文書とはなにか調べてください。	
12.	地域の史料を探す	地域の歴史をしらべる人は多いです。あなたはどう対応しますか	
13.	地域の特徴を知る	地域はそれぞれに特徴をもっています。皆同じではありません。	
14.	地域史料の市民への公開	資料の目録を作る方法とその公開を考えてください	
15.	市民と図書館の交流	図書館は本を貸す所だけでなく交流拠点です。どうしたらいいのでしょうか。	
教科書	授業ごとにプリントを配布する		
参考書	適宜紹介する		
学習成果の評価方法	定期試験（60%） レポート（30%）（到達度確認レポートは4回の講義ごとに提出） 受講態度10%		
特記すべき事項	遅刻・雑談などはしないこと。評価に影響する。 担当者は久留米市に於いて文化財保護業務を担当し、歴史資料などの収集・整理・公開業務をおこなった。		
質問・相談等の受付	授業中でも授業終了後でも質問・相談は受け付けます。		

科目	情報機器論		開講時期 履修方法	2年通年 選択、専門科目	
担当者	吉本暢子		授業形態 単位数	演習 2単位	
授業概要	視覚情報伝達のための効果的なグラフィックを制作できる基本ソフト・イラストレーターとフォトショップ（画像調整など）の習得。 前期：基本的操作を習得する。 後期：前期で習得した操作方法に基づき目的にあったグラフィックを制作、印刷原稿として完成させる。				
到達目標	図書館利用者への書籍の紹介POPやイベント等のDM、フライヤーの制作を積極的に行うことができる。 習得した操作を利用してブックカバー制作。				
学習成果の評価基準	○「知識・理解・技能の評価基準」 前期：操作修得・理解して練習課題をできる。 後期：内容やニーズに合ったデザイン表現を適切な操作方法で制作できる。 ○「講義態度の評価基準」課題を制作時に問題を見つけ積極的に解決工夫できる。				
授業計画（授業内容）			授業時間外学習 予習・復習		
1.	ガイダンス 操作取得の流れをつかむ イラストレーター・フォトショップでできる事				
2.	イラストレーターとフォトショップの共通の基本操作 イラストレーター基本 :1 フォトショップの基本操作			前回の復習	
3.	イラストレーター基本 :2 図形や線を描く 3 オブジェクトの選択と基本的な変形			前回の復習	
4.	イラストレーター基本+技能習得：総合演習			前回の復習	
5.	イラストレーター基本 :4 色と透明度の設定 5 オブジェクトの編集と合成			前回の復習	
6.	イラストレーター基本+技能習得：総合演習			前回の復習	
7.	イラストレーター基本 :6 線と文字の設定			前回の復習	
8.	イラストレーター基本+技能習得：総合演習			前回の復習	
9.	イラストレーター基本 :7 覚えておきたい機能			前回の復習	
10.	イラストレーター基本+技能習得：総合演習			前回の復習	
11.	フォトショップ基本 :1 解像度・レイヤー作業と色調整 2 選択範囲の作成			前回の復習	
12.	フォトショップ基本 : 色の設定とペイント操作 4 レイヤーマスク 5 画像修正			前回の復習	
13.	フォトショップ基本+技能習得 フォトショップ基本 :6 文字、パス、シェイプ			前回の復習	
14.	フォトショップ基本 :7 フィルターとレイヤースタイル フォトショップ基本+技能習得			前回の復習	
15.	イラストレーターとフォトショップの連携			前回の復習	
教科書	illustrator & Photoshop操作とデザインの教科書				
参考書					
学習成果の評価方法	受講態度（40%） 授業内課題（60%）				
特記すべき事項	欠席が続けば習得が難しくなります。できるだけ欠席がないように心がけてください。				
質問・相談の受付					

科目	福祉コミュニケーション	開講時期 履修方法	2年後期 専門科目
担当者	中村秀一	授業形態 単位数	1単位
授業概要	本講義においては、福祉理念を学修し、福祉的支援を必要とする者に対する基礎的な仕組みを中心に事例をあげて講義していく。また、図書館司書として、必要なコミュニケーションの方法を学修する。		
到達目標	福祉の理念や基本的な制度の概要、コミュニケーションの技術を修得することができる。そのことにより、図書館司書として、福祉的支援の必要な方々への対応ができる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している福祉の理念や基本的な制度の概要、コミュニケーションの技術を理解することできる達成度を測るために、授業内課題並びに試験を実施し評価する。また、予習復習による理解度を図るためにも授業内での質問などの積極的授業態度をもって評価とする。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	福祉とは何か 生活の課題と福祉の対象	生活の課題を新聞、ニュースから整理しておくこと。授業後は福祉の対象を整理すること。	
2.	福祉の理念 人権尊重/ノーマライゼーション/インクルージョン/自己実現	人権と権利の違いを調べておくこと。授業後は福祉的理念を整理しておくこと。	
3.	社会保障と社会福祉 わが国の社会保障制度と福祉の関係	社会保障とは何かを調べておくこと。授業後は、社会福祉し保障の関係を整理すること。	
4.	低所得者の福祉 生活保護法/生活困窮者自立支援法/ホームレスの自立の促進に関する法律等の対象となる生活者の現状と対策	国民の平均所得額を調べ、低所得の発生原因を予習する	
5.	子どもの福祉 国際的な子どもの位置づけと現代の子ども観について	子どもの権利条約とは何かを調べ、授業後は子ども観を整理しておくこと。	
6.	子ども家庭福祉 子育て家庭が抱える問題と福祉的支援(子どもの貧困、ひとり親対策等)	子育て家庭の抱える生活問題とは何かを調べ、授業後は支援策を整理すること。	
7.	障がい者福祉 障がいとはなにか、障がい者支援の目的とサービス	障がいとは何かを考え、授業後は障がい者が生活しやすい環境の要因を整理すること。	
8.	高齢者福祉 老いとはなにか、高齢者支援の目的とサービス	老いによる喪失とは何かを考え、授業後は、支援サービスを整理する。	
9.	対人支援とコミュニケーション① 個別支援の基本	受容とは何かを調べ、授業後は個別支援の技術を整理すること。	
10.	対人支援とコミュニケーション② 集団支援の基本	グループの力とは何かを考え、授業後は、集団支援の技術を整理すること。	
11.	体験学習 車いす、アイマスク等の体験	車いすの各部位の名称を調べておくこと。授業後は、注意点を整理すること。	
12.	体験学習 やさしい手話、点字ブロック	コミュニケーションツールについて調べ、授業後は、基本的な内容を整理する。	
13.	体験学習 福祉施設見学、交流	障害者支援施設、老人介護施設の役割について調べ、整理する。	
14.	体験学習 福祉施設見学、交流	障害者支援施設、老人介護施設の役割について調べ、整理する。	
15.	まとめと振り返り	振り返りを通し、より深い理解が必要な内容を整理する。	
教科書	『社会福祉を学ぶ(第4版)』山田美津子・稲葉光彦編 (株)みらい		
参考書	必要に応じてプリントを配布する		
学習成果の評価方法	受講態度(20%)、授業内による演習状況(20%)、授業内課題(60%)15回目の授業において、授業内課題の内容のフィードバックを行います。		
特記すべき事項	福岡県社会福祉協議会勤務(昭和60年～平成13年12月)		
質問・相談等の受付	質問・相談は、研究室で受け付けます。ただし、簡易な質問であれば、研究室に限らず随時対応します。		

科目	生涯学習概論	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	中山博晶	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	<p>本講義では、現代における生涯学習の理論・政策・実践を学習し、「人の生涯にわたる『学び』」を支える支援者の役割について検討していきます。その際、特に、「現代の貧困」に向き合う生涯学習の理論と実践を学習します。</p> <p>本講義で取り上げる「現代の貧困」は、失業者やホームレスなど絶対的な貧困の問題だけではなく、社会の中の諸活動への参加が阻まれる「社会的排除」の問題も対象としています。この社会の片隅で営まれている「生涯学習」にスポットライトを当てながら、生涯学習を支えることの意味と、その役割について一緒に考えていきたいと思えます。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生涯学習の基礎的な知識について理解できるようになる 2. 生涯学習を支える支援者の役割について、自分なりの考えを説明することができる 3. 今まで自身が持っていた学習・教育観を見つめ直し、問い直すことができる 4. 生涯学習の視座を自分の生活を豊かにする方法論として応用することができる 		
学習成果の評価基準	<p>生涯学習の基礎的な知識及び支援者の役割について、期末試験を実施し評価する。</p> <p>授業を受けて自分の学習・教育観を見つめ直すことができたか、また日常生活にどのように応用可能かを考えることができたかを測るために、身の回りの生涯学習について授業内発表を実施し、評価する。</p> <p>毎授業の積極的な質問・発表及び、毎回の授業終わりに記入するコメントカードの内容を「授業態度」の評価とする。</p>		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	オリエンテーション（授業の進め方、自己紹介など）		
2.	生涯学習を考える（1）「夜間中学」映像	配布プリント	
3.	生涯学習を考える（2）映像を踏まえてのディスカッション	配布プリント	
4.	生涯学習の国際的な動向、学習権宣言	配布プリント	
5.	日本における生涯学習政策の動向（1）社会教育法と理念	配布プリント	
6.	日本における生涯学習政策の動向（2）社会教育・生涯学習施設	配布プリント	
7.	「現代の貧困」に向き合う生涯学習（1）子どもの貧困	配布プリント	
8.	「現代の貧困」に向き合う生涯学習（2）子ども食堂、発表	配布プリント	
9.	「現代の貧困」に向き合う生涯学習（3）成人基礎教育	配布プリント	
10.	「現代の貧困」に向き合う生涯学習（4）夜間中学	授業内発表の準備	
11.	「現代の貧困」に向き合う生涯学習（5）障害者と生涯学習	配布プリント	
12.	「現代の貧困」に向き合う生涯学習（6）障がいのある人への図書館サービス、発表	授業内発表の準備	
13.	「現代の貧困」に向き合う生涯学習（7）高齢者の貧困	配布プリント	
14.	「現代の貧困」に向き合う生涯学習（8）大阪・釜ヶ崎での表現活動、発表	授業内発表の準備	
15.	まとめ	配布プリント	
教科書	<p>必要な資料等は教員が準備します。</p> <p>参考文献：上田幸夫・辻浩編『現代の貧困と社会教育—地域に根ざす生涯学習—』（国土社、2009）、社会教育推進全国協議会編『社会教育・</p>		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度（20%） 定期試験（50%） 授業内発表（30%）		
特記すべき事項			
質問・相談等の受付			

科目	図書館制度・経営論	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	堤 諭吉	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	各種図書館の設立の法的根拠を理解し、図書館の役割を達成するために自らの課題を発見し図書館の運営方法を考える。それによって制度と運営が為されていることを理解する。		
到達目標	図書館関連の法規について理解している。図書館の経営のあり方を理解している。		
学習成果の 評価基準	到達目標に記している図書館関連法規及び図書館経営の在り方についての理解度を測るために、定期試験を実施して評価する。また、授業内課題（レポート提出）の内容及び授業での積極的な意見発表についても評価対象とする。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	図書館法と、図書館関連法について		
2.	図書館法（逐条解説）	図書館法に目を通す	
3.	他館種（国立国会図書館、学校図書館等に関する法規）	各法規に目を通す	
4.	図書館サービスに関する法規	各法規に目を通す	
5.	図書館政策（国・地方公共団体・JLA）	資料を読んでおく	
6.	公共機関・施設の経営方法	資料を読んでおく	
7.	先進的図書館活動を学ぶ（ビデオ）	インターネット等で調べておく	
8.	先進的図書館活動を学ぶ（新聞・雑誌記事）	配布資料に目を通しておく	
9.	現代社会における図書館のあり方を討議する	自分の意見をまとめておく	
10.	図書館経営とは（ビデオ視聴）	資料を読んでおく	
11.	図書館の人事管理・組織について	資料を読んでおく	
12.	図書館の施設・設備と予算管理	資料を読んでおく	
13.	図書館のサービス計画	資料を読んでおく	
14.	議会、教育委員会等と図書館	資料を読んでおく	
15.	図書館の管理形態の多様化	資料を読んでおく	
教科書	適宜、資料配付		
参考書			
学習成果の 評価方法	授業内課題（20%） 定期試験（60%） 授業内発表（20%）		
特記すべき 事項			
質問・相談等 の受付			

科目	児童サービス論	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	梅野智美	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	児童の発達状況と読書の役割を理解し、年齢層別サービスを実践する能力を習得する。児童サービスにとって「言葉」の重要性を情報資料を元に学ぶ。児童と情報資料を結ぶための手法を実践を兼ねて学ぶ。		
到達目標	児童の発達状況と読書の役割を理解し、年齢層別サービスを実践する能力を習得できるようになる。児童と情報資料を結びつける手法、ブックトークなどを習得できるようになる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している、児童の発達状況と年齢層別サービス、児童と情報資料を結びつける手法の達成度を測るために、到達度確認テスト（期末レポート）を実施し評価する。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	児童サービスの意義と基本について	児童サービスについて考える	
2.	児童サービスの歴史	児童サービスの歴史について考える	
3.	児童サービスの種類と内容（1）	児童サービスの種類について考える	
4.	児童サービスの種類と内容（2）	児童サービスの種類について考える	
5.	児童サービスの管理・運営	児童サービスの管理・運営について考える	
6.	児童資料の種類と特性	児童資料の種類と特性について考える	
7.	乳幼児サービス	乳幼児サービスについて考える	
8.	ヤングアダルトサービス	ヤングアダルトサービスについて考える	
9.	学校図書館へのサービス	学校図書館のサービスについて考える	
10.	地域と公共図書館	地域と公共図書館の連携について考える	
11.	児童サービスの課題と展望	今後の児童サービスについて考える	
12.	児童と本を結びつける手法（1）	ブックトークで紹介する本を考える	
13.	児童と本を結びつける手法（2）	ブックトークで紹介する本を考える	
14.	児童と本を結びつける手法（3）	紙芝居の演じ方を練習する	
15.	児童と本を結びつける手法（4）	紙芝居の演じ方を練習する	
教科書	『児童サービス論』現代図書館情報学シリーズ6 高山正也ほか 樹村房 / 『図書館情報学基礎資料』今まど子ほか 樹村房		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度（10%）小テスト（20%）定期試験（70%）		
特記すべき事項	担当者は司書として17年の実務経験を有しています。		
貸出・相談等の受付			

科目	図書館情報技術論	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	坂川和彦	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	図書館業務に必要な、コンピュータのハードウェア、ソフトウェア、データベース、ネットワーク等基礎的な情報技術を修得する。また、インターネットの仕組みやそれを通じた情報発信の方法を修得するとともに、セキュリティも合わせて学ぶ。		
到達目標	図書館で活用されている様々な情報技術について理解し、使いこなすための知識を修得すること。 図書館に限らず、現代社会を支えている情報技術について理解すること。		
学習成果の 評価基準	授業内に單元ごとの理解度チェックを行う 定期試験で、図書館に関する情報技術について問う		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	図書館における情報技術の変遷	教科書p1～20	
2.	図書館における情報機器の役割と実際	教科書p21～37	
3.	コンピュータの仕組みとその歴史	教科書p38～55	
4.	インターネットの仕組みとその歴史	教科書p56～74	
5.	情報検索の基礎（1）	教科書p75～88	
6.	情報検索の基礎（2）	教科書p89～102	
7.	情報検索の基礎（3）	教科書p103～113	
8.	情報検索の実際（1）	教科書p114～128	
9.	情報検索の実際（2）	教科書p129～151	
10.	インターネット上の情報発信（1）	教科書p152～171	
11.	インターネット上の情報発信（2）	教科書p172～185	
12.	電子資料の管理	教科書p186～212	
13.	情報管理のための技術と法	教科書p213～232	
14.	デジタルアーカイブの現状と課題	教科書p233～250	
15.	最新の情報技術と図書館	教科書p251～270	
教科書	『図書館情報技術論』 河島茂生 ミネルヴァ書房		
参考書			
学習成果の 評価方法	授業内課題：40% 期末試験：60%		
特記すべき 事項	司書資格必修		
質問・相談等 の受付	図書館で随時受付 電子メールでも sakagawa@kvshuotani.online		

科目	レファレンスサービス演習	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	下川和彦	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	情報サービスの中核となるレファレンスサービスの基礎知識とサービスの実際を学ぶ。		
到達目標	具体的レファレンス課題に解答し、レファレンス記録を作成することができるようになる。		
学習成果の 評価基準	随時課されるレファレンス課題に解答し、授業中に報告する。 授業終了後の課題レポートで自分の考えをまとめ提出することができる。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	オリエンテーション		
2.	レファレンスサービスとレファレンスツール	配布資料読み込み	
3.	レファレンスツール（参考図書）	配布資料読み込み	
4.	レファレンスツール（インターネット情報資源）	配布資料読み込み	
5.	レファレンス記録	配布資料読み込み	
6.	レファレンスサービス事例研究（1）	課題提出	
7.	レファレンスサービス事例研究（2）	課題提出	
8.	レファレンスサービス事例研究（3）	課題提出	
9.	レファレンス課題 回答と記録（1）	課題提出	
10.	レファレンス課題 回答と記録（2）	課題提出	
11.	レファレンス課題 回答と記録（3）	課題提出	
12.	レファレンス課題 回答と記録（4）	課題提出	
13.	発信型情報サービス	配布資料読み込み	
14.	情報サービスに関わる知的財産権	配布資料読み込み	
15.	情報リテラシー	配布資料読み込み	
教科書	荃納タオ（著）『夜明けの図書館』（全7巻）双葉社、2011年から2021年 横盛 可那子・樋渡 えみ子（編著）『れふあれんす百題噺』日本図書館協会 2020年		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（10%） 課題提出（10%） レポート（80%）		
特記すべき 事項	全体授業終了後レポート提出 担当者は、司書として市立図書館で実務経験を有する		
質問・相談等 の受付	授業終了後、教室にて		

科目	情報資源組織演習Ⅱ	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	坂川和彦	授業形態 単位数	演習 1単位
授業概要	主題を用いた組織法を学ぶ。情報資源の主題分析により主題を抽出し、件名標目表、日本十進分類法からそれぞれ適切な言葉、分類記号を付与する方法を、演習形式で修得する。		
到達目標	日本十進分類法や件名標目表を使って、情報資源の主題組織化ができるようになる。		
学習成果の 評価基準	定期試験で各類の分類、各区分、分類規定等を総合的に問う。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	主題組織法	情報資源組織論の分類の部分の復習	
2.	主題分析	配布プリント	
3.	件名標目表	配布プリント	
4.	件名付与演習	配布プリント	
5.	日本十進分類法の構成と展開	配布プリント	
6.	形式区分	配布プリント	
7.	分類演習1	配布プリント	
8.	地理区分・海洋区分	配布プリント	
9.	分類演習2	配布プリント	
10.	言語区分・言語共通区分・文学共通区分	配布プリント	
11.	分類演習3	配布プリント	
12.	分類規定	配布プリント	
13.	分類演習4	配布プリント	
14.	主題組織総合演習1	配布プリント	
15.	主題組織総合演習2	配布プリント	
教科書	『日本十進分類法』 新訂10版 簡易版 もりきよし 日本図書館協会		
参考書	『情報資源組織論』 榎本由希子ほか 学文社		
学習成果の 評価方法	受講態度:10% 期末試験:90% 試験結果はフィードバック		
特記すべき 事項	司書資格必修		
質問・相談等 の受付	図書館で随時受付 電子メールでも sakagawa@kvshuotani.online		

科目	図書館情報資源概論	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	梅野智美	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	図書館において、「資料と利用者を結ぶこと」は重要である。図書館員に求められることは図書館情報資料に関する知識をさらに深めることであり、レファレンスサービスに必要な資料を使いこなせることである。図書館における情報資料全般について学ぶ。		
到達目標	図書館情報資料に関する知識を学び、レファレンスサービスに必要な知識を習得できるようになる。		
学習成果の 評価基準	到達目標に明示している、図書館の情報資料、レファレンスサービスに必要な知識の習得を測るために、到達度確認テスト（期末レポート）を実施し評価する。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	図書館情報資源概論について	図書館の情報資料について考える	
2.	図書館情報資源の種類と特質（1）	図書、逐次刊行物、小冊子などについて考える（1）	
3.	図書館情報資源の種類と特質（2）	図書、逐次刊行物、小冊子などについて考える（2）	
4.	図書館情報資源の種類と特質（3）	図書、逐次刊行物、小冊子などについて考える（3）	
5.	図書館情報資源の収集とコレクション構築（1）	本学図書館にある資料を知る（1）	
6.	図書館情報資源の収集とコレクション構築（2）	本学図書館にある資料を知る（2）	
7.	図書館情報資源の収集とコレクション構築（3）	本学図書館にある資料を知る（3）	
8.	情報資源の生産・流通と図書館（1）	電子出版、電子書籍などデジタル出版について考える	
9.	情報資源の生産・流通と図書館（2）	日本の商業出版と流通について考える（1）	
10.	情報資源の生産・流通と図書館（3）	日本の商業出版と流通について考える（2）	
11.	図書館資料について（1）	図書館コレクション利用の権利について考える（1）	
12.	図書館資料について（2）	図書館コレクション利用の権利について考える（2）	
13.	図書館資料について（3）	蔵書評価法及び除籍と廃棄について考える	
14.	図書館資料について（4）	蔵書点検、書庫管理の意義について考える	
15.	まとめ	今までの学びを振り返る	
教科書	改訂『図書館情報資源概論』現代図書館情報学シリーズ8 岸田和明ほか編 樹村房		
参考書			
学習成果の 評価方法	受講態度（10%） 小テスト（20%） 授業内課題（10%） 定期試験（60%）		
特記すべき 事項	担当者は司書として17年の実務経験を有しています。		
質問・相談等 の受付			

科目	学校図書館サービス論	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	梅野智美	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	学校図書館の機能には、「読書センター」、「学習センター」、「情報センター」の3つの機能がある。学校図書館の利用者は、児童、生徒、教職員がほとんどである。そのニーズに応える情報サービスの提供をどうすればいいのか。また、学校図書館の環境整備、運営、資料・情報の提供、児童・生徒への読書支援、教職員への支援等学校図書館サービスについて学ぶ。		
到達目標	学校図書館サービスの「読書センター」、「学習センター」、「情報センター」の機能、役割、職務などについて理解できる。		
学習成果の評価基準	到達目標に明示している、学校図書館サービスの機能、役割、職務についての達成度を測るために、到達度確認テスト（期末レポート）を実施し評価する。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	学校教育と学校図書館	学校教育と学校図書館について考える	
2.	学校図書館のサービスの考え方と構造	学校図書館のサービスについて考える	
3.	学校図書館の環境整備 図書の分類・配列・配架など	学校図書館の環境整備について考える	
4.	学校図書館の環境整備 展示・掲示・本の修理	学校図書館の展示・掲示について考える	
5.	学校図書館の運営	学校図書館の運営について考える	
6.	学校図書館利用のガイダンス	学校図書館利用ガイダンスについて考える	
7.	資料・情報の提供	学校図書館の資料・情報提供について考える	
8.	児童・生徒への読書支援	学校図書館の児童・生徒への読書支援について考える	
9.	各教科などの学習への支援	学校図書館の各教科への学習支援について考える	
10.	探求的な学習への支援	課題解決学習・問題解決学習について考える	
11.	特別の支援を要する児童・生徒と学校図書館 特別支援学校の学校図書館	特別支援学校の学校図書館について考える	
12.	特別の支援を要する児童・生徒と学校図書館 学校図書館での合理的配慮	学校図書館での合理的配慮について考える	
13.	教職員への支援	教育職員への支援について考える	
14.	広報・渉外活動	学校図書館の広報・渉外活動について考える	
15.	公共図書館と学校図書館の連携・ネットワーク	公共図書館と学校図書館の連携・ネットワークについて考える	
教科書	『学校図書館サービス論』小川三和子著 青弓社		
参考書			
学習成果の評価方法	受講態度（10%） 小テスト（20%） 定期試験（70%）		
特記すべき事項	担当者は司書として17年の実務経験を有しています。		
質問・相談等の受付			

科目	学習指導と学校図書館		開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	有川公一		授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	学校の教育課程の展開に寄与する学校図書館の在り方と、児童・生徒自ら学ぶ教育を支える学校図書館の役割を講義する。			
到達目標	学習指導における学校図書館の果たす役割について説明できる。 児童生徒や教職員に必要とされる学修支援の内容について判断できる。			
学習成果の 評価基準	到達目標に明示している学習指導における学校図書館の果たす役割について説明できることを測るために、到達度確認テスト（レポート）を随時実施し、評価する。			
授業計画（授業内容）			授業時間外学習	
			予習・復習	
1.	イントロダクション 学校図書館の現状と課題・授業概要の説明と進め方について説明する。		シラバスをよく読んでおく。	
2.	学びを支える学校図書館の役割→多様な現代諸課題に答える学びの必要性と、これからの学びを支える学校図書館の役割について述べる。		事前添付資料を読んでおく。	
3.	学校カリキュラムと学校図書館→学習指導要領の改訂と学校図書館関連の内容の記述について述べる。		事前添付資料を読んでおく。	
4.	学校カリキュラムと学校図書館→学習・情報センターとしての学校図書館の機能について述べる。		事前添付資料を読んでおく。	
5.	主体的学習と情報活用能力の育成→司書教諭が指導する情報活用能力の育成について説明する。		事前添付資料を読んでおく。	
6.	主体的学習と情報活用能力の育成→情報活用能力育成のための指導内容の系統性・発展性・一貫性について述べる。		事前添付資料を読んでおく。	
7.	主体的学習と情報活用能力の育成→学校図書館利・活用から情報活用能力育成の実践について述べる。		事前添付資料を読んでおく。	
8.	情報活用能力の育成の計画と方法→学校図書館教育全体計画と情報活用指導計画の作成について、具体的事例を基に説明する。		事前添付資料を読んでおく。	
9.	情報活用能力の育成の計画と方法→情報活用能力の育成について、実際に指導すべき内容や方法について、具体的事例をもとに説明する。		事前添付資料を読んでおく。	
10.	情報活用能力の育成の計画と方法→児童生徒の探求型学習のまとめ、振り返りをどのように行うかは、次への動機づけとして重要、その評価について述べる。		事前添付資料を読んでおく。	
11.	学校図書館における情報サービス→学校における児童生徒への学習指導や教職員の教育活動へのレファレンスサービス等の情報サービスについて説明する。		事前添付資料を読んでおく。	
12.	教職員に対する支援と働きかけ→学校図書館が学校全体の教育に位置付き、機能している事例を紹介し、学校図書館の役割について考える。		事前添付資料を読んでおく。	
13.	教職員に対する支援と働きかけ→教科学習において学校図書館がどのように活用されるか、具体的事例から考察する。		事前添付資料を読んでおく。	
14.	教職員に対する支援と働きかけ→学習指導における司書教諭の役割について、児童生徒、教職員、地域等の面から考える。		事前添付資料を読んでおく。	
15.	1～14回の講義の補足とまとめ		今まで学んだ内容を復習すること	
教科書	情報を学習につなぐ情報・メディアを活用する学び方の指導体系表解説			
参考書				
学習成果の 評価方法	受講態度（10%） 小テスト（10%） 授業内課題（10%） 定期試験（70%）			
特記すべき 事項	履修中のスマートフォン使用は厳禁			
質問・相談等 の受付				

科目	絵本論	開講時期 履修方法	2年後期 選択、専門科目
担当者	梅野智美	授業形態 単位数	講義 2単位
授業概要	絵本を通して、その人のありのままの自分を引き出すことを目的とする。お互いの意見を交換しながら心の交流を通して、自分の本当の気持ちや意思を見つめ直し気持ちを前向きにする手法をグループディスカッションを通して学ぶ。		
到達目標	絵本を、同じ人から同じ場所で同じように読み聞かせてもらい、それぞれの受け取り方・感じ方が違うことを学ぶ。また、絵本を自分で読む場合と他人から読んでもらう場合の違いを実体験する。更に、絵本は幼児から高齢者まで幅広い年齢層に語りかける読書であることを絵本セラピーを通して体感できるようになる。		
学習成果の 評価基準	授業内での積極的なグループディスカッションを「受講態度」の評価とする。及び、絵本セラピーの実践も評価基準とする。		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	絵本とは	絵本について考える	
2.	なぜ大人に絵本を読むのか	大人と絵本について考える	
3.	絵本セラピーを体験する（1）	大人と絵本について考える	
4.	絵本セラピーを体験する（2）	大人と絵本について考える	
5.	絵本セラピーのプログラムについて（1）	いろいろなジャンルの絵本を読む	
6.	絵本セラピーのプログラムについて（2）	いろいろなジャンルの絵本を読む	
7.	絵本力（ストーリー・ことば・絵・絵本を選ぶ力・読み方・表現方法）	いろいろなジャンルの絵本を読む	
8.	絵本の読み聞かせについて	絵本の読み聞かせの練習	
9.	絵本セラピーのプログラム作成（絵本の選定）	いろいろなジャンルの絵本を読む	
10.	絵本セラピーのプログラム作成（三部構成）	いろいろなジャンルの絵本を読む	
11.	絵本セラピーの実践（1）	実践を通して絵本セラピーについて考える	
12.	絵本セラピーの実践（2）	実践を通して絵本セラピーについて考える	
13.	絵本セラピーの実践（3）	実践を通して絵本セラピーについて考える	
14.	絵本セラピーの実践（4）	実践を通して絵本セラピーについて考える	
15.	まとめ	今までの学びを振り返る	
教科書			
参考書	『絵本はこころの処方箋 大人のための絵本セラピー』、『絵本はこころの架け橋』岡田達信 瑞雲舎		
学習成果の 評価方法	受講態度（40%） 授業内課題（10%） 授業内発表（50%）		
特記すべき 事項	担当者は絵本セラピストとしての実務経験を有しています。		
質問・相談等 の受付			

科目	図書館実習	開講時期 履修方法	2年前期 選択、専門科目
担当者	坂川和彦	授業形態 単位数	実習 1単位
授業概要	図書館という現場での実務を体験することにより学習してきたことの理解を深める。夏季休暇期間中に約10日間行う実習を中心に、事前の調査・準備・学習、実習後の報告・反省・総括を行い、実務を知り、図書館員のあり方などの自覚を高める。		
到達目標	実習を無事終わりまで勤め、図書館業務の実際、各自の問題点を把握する。 実習体験をそれまでの学習と結びつける。		
学習成果の 評価基準	実習館による評価 実習記録 実習についてのレポート		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習館の調査と選定 2. 図書館実習事前指導 1 3. 図書館実習事前指導 2 4. 図書館実習（夏期休暇期間中実質10日間） 5. 反省会 	『図書館年鑑』等での、実習 予定図書館の調査 実習内容の確認 実習時の注意確認 実習館での事前打合せ 各図書館の事前課題 レポート作成	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習館の調査と選定 2. 図書館実習事前指導 1 3. 図書館実習事前指導 2 4. 図書館実習（夏期休暇期間中実質10日間） 5. 反省会 		
教科書			
参考書			
学習成果の 評価方法	実習館の評価：50% 実習記録：20% レポート：30%		
特記すべき 事項			
質問・相談 の受付			

科目	卒業研究 I	開講時期 履修方法	2年前期 必修、専門科目
担当者	坂川和彦・梅野智美	授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	卒業論文、もしくは卒業制作に向けて、各自テーマを設定し、研究計画を立てる。研究に着手し、できたところまでをレジュメを作成し「卒業研究中間発表会」で発表する。また、就職活動は内定に向けて活動を促す。併せて福祉施設での読み聞かせを実施する。		
到達目標	各自のテーマを設定し、研究成果をレジュメにまとめて中間発表を行う。 福祉施設で読み聞かせができるようになる。		
学習成果の評価基準	卒業論文（制作）について、レジュメを作成し、中間発表を行う 夏季休暇に向けて、卒業研究や就活の計画を立てる 福祉施設で読み聞かせ等を実施する		
	授業計画（授業内容）	授業時間外学習 予習・復習	
1.	春期休暇の反省	春期休暇の成果をまとめる	
2.	研究テーマの選定	研究テーマについての考察	
3.	研究計画の策定	大まかな計画を作る	
4.	資料収集 1 論文	情報検索法の復習	
5.	資料収集 2 図書	情報検索法の復習	
6.	レジュメのまとめ方	研究動機や目的を考える	
7.	福祉施設での読み聞かせ図書の選定と練習	図書館での絵本探し	
8.	福祉施設での読み聞かせ会の予行演習	読み聞かせの練習	
9.	福祉施設での読み聞かせ会	読み聞かせの練習	
10.	中間発表のレジュメ第一稿提出	研究を進めレジュメを作る	
11.	個人別指導	研究を進めレジュメを作る	
12.	レジュメの完成と発表練習	研究を進めレジュメを作る	
13.	卒業研究中間発表	発表準備	
14.	中間発表の反省	各自の反省	
15.	今後の研究計画と夏季休暇の予定	計画を考える	
教科書			
参考書			
学習成果の評価方法	施設実演：10% レジュメ：40% 発表：40% レポート：10%		
特記すべき事項			
質問・相談等の受付			

科目	卒業研究Ⅱ		開講時期 履修方法	2年後期 必修、専門科目
担当者	坂川和彦・梅野智美		授業形態 単位数	演習 2単位
授業概要	卒業研究Ⅰに引き続き、各自の研究テーマに基づき研究を深める。研究結果を12月に行われる情報文化学会で発表し、完成させた卒業論文、卒業研究を提出する。			
到達目標	卒業研究を行い、成果を卒業研究発表会で発表し、論文にまとめる、もしくは作品を制作する。			
学習成果の 評価基準	情報文化学会でレジュメを作成し発表する 完成した卒業研究について口頭試問を行う			
	授業計画（授業内容）			授業時間外学習 予習・復習
1.	夏季休暇の反省			夏季休暇の成果をまとめる
2.	研究計画の見直し			研究の見通しを立てる
3.	個人別指導1			研究を進める
4.	個人別指導2			研究を進める
5.	個人別指導3			研究を進める
6.	個人別指導4			研究を進めレジュメにまとめる
7.	個人別指導5			研究を進めレジュメにまとめる
8.	レジュメ第1稿提出			大まかなレジュメ作成
9.	個人別指導6			研究を進めレジュメにまとめる
10.	個人別指導7			研究を進めレジュメにまとめる
11.	レジュメの完成と発表練習			レジュメの完成
12.	卒業研究発表			発表準備
13.	発表の反省と論文の執筆・作品の制作			論文執筆・作品制作
14.	卒業研究の提出			研究の最終段階
15.	口頭試問			口頭試問に向けての準備
教科書				
参考書				
学習成果の 評価方法	情報文化学会での発表：30% 卒業論文もしくは卒業制作（口頭試問を含む）：80%			
特記すべき 事項				
質問・相談 の受付				